

南台小学校は65歳になります！

校長 柏原 奈保

校庭の木々の緑が日に日に鮮やかになってきました。桜道の桜の木もいつの間にか美しい緑の葉をつけています。今の時期の葉はキラキラと輝き、生きる息吹を感じさせてくれます。エネルギーをもらえる気がする大好きな季節です。子ども達は、新年度になって3週間が過ぎ、「どんな先生だろう」「新しいクラスの子はどんな子だろう」と様子を見ながらも、新しい学年での活動に意欲を見せています。教職員は、この子はどんな力をもっているのだろう、どうしたらよさを引き出せるだろう、一人ひとりの様子を見つめています。そして、子ども達のよさを生かし、より成長できる学級にするには・・・と、日々、努めてきました。

27日の月曜日、創立記念日を祝う朝会を行いました。南台小学校は、昭和36年（1961年）5月1日に開校したので、今年でちょうど65周年になります。

校長室には、開校当時の様々な資料が残っているので、調べてみました。

南台小学校は、もともと桜岡小学校南台分校として昭和34年（1959年）に開校しました。桜岡小学校の児童数が2500人を超えるほどに急増し、近隣の日下小学校や日野小学校の学区内の急速な開発に伴いさらに地区の児童数の増加が見込まれたことから新たな学校の設立が悲願となっていました。そして、地域の方々が「港南区学校建設促進委員会」というものを作って強く要望し、建設予定地の選定も含め活動し、現在の地に開校するに至ったそうです。また開校にあたっては、様々な方に学校用地を提供していただくなど、地域の並々ならぬ協力があったので開校だったようです。その当時「港南区」という区名はなく南区中登台という地名であったため、南区の「南」と中登台の「台」ととって「南台」と名付けたそうです。開校当時、校舎は木造で8学級だったと記録されています。校庭の周りの埋め立てが完成していないうえに、桜道も砂利道で横断歩道や信号もなく、雨が降ると道路がぬかるんでしまったそうです。晴れの日には、校庭の砂ぼこりがひどく、家に帰って顔を洗うと、洗面器の水が茶色くなるほどだったというので、よほどの状況だったのでしょう。翌年には鉄筋2階建ての校舎が作られ、昭和36年（1961年）5月1日に「南台小学校」として独立開校しました。このころには、児童数が20学級に増えていたそうです。そして、その年の11月、19人48点の応募の中から選定し、校章が決まりました。校歌は昭和44年に作られたそうです。校章も校歌も、今も大切に受け継いでいるものです。このころには、児童数が2000人にも迫るほどに増加していたというから驚きです。この状況は、昭和45年に上大岡分校（今の上大岡小学校）ができたことで一時は緩和しましたが、また徐々に増加し、教室が足りない状況になりました。昭和49年ごろには校庭にプレハブ校舎が建ち並び、運動会は隣の笹下中学校で行ったこともあるそうです。昭和51年に相武山小学校ができ、徐々に児童数は落ち着いていったとのこと。今の校舎（A棟）ができたのは平成5年、同時に体育館もでき、「アリーナ」と呼ぶようになりました。当時の子ども達は、「名前を聞いただけで、楽しいことができそうな気がする」と、この呼び方を大変気に入ったそうです。今も、子ども達は、アリーナが大好きです。

こうして南台小学校の歴史を振り返ってみると、その時その時の子ども達や教職員、地域や保護者の方の学校を思う気持ちが感じられます。これから先も南台小学校の歴史は続いていきます。これまでの歴史や人々の思いを含め、学校が好き、学校を大切にしようと思える子ども達を育てていきたいと思えます。

